

一般社団法人日本エデュバイト協会 設立趣意書
～志あるグローバル・グローバル人財の育成に向けて～

現代の社会は、技術の発展と新興工業国の台頭によって急速にグローバル化が進み、ヒト・モノ・金・情報のみならず、思想や制度までが国境を超えて移動する時代になりました。同時にコンピューターサイエンスを主とする科学技術の発達も目覚ましく、近い将来には人工知能が人間を超えて様々な現存する労働が機械に代替され、今後20年で現存する50%以上の仕事が人工知能に取って代わるとの予想もあるほどです。我が国の総人口は今後長期の人口減少過程に入り、2048年には1億人を下回ると推定されています。65歳以上の高齢人口と20～64歳人口（現役世代）の比率は、2060年には、1人の高齢者に対して1.2人の現役世代という割合になり、かつての「胴上げ型」から「肩車型」の社会への変遷を避けることは非常に難しいでしょう。また、国民1人あたりのGDPはOECD加盟34か国中19位、主要7か国の中では6位という状況で、日本全体では現在の500兆円が2060年には半分の250兆円になるとの推測もあります。一人当たりの労働生産性と付加価値を上げていくための取組みが今後の大きな課題となりますが、労働者1人あたりの平均年収が年々減少している現況を鑑みるに、グローバル化の進展に遅れをとるだけでなく日本国内での経済・生活水準維持すら困難となる未来は想像に難くありません。

幸いなことに、大学生の就職率は近年上昇傾向にあり、大学入試も学力評価だけに依存しない多様性により門戸を大きく開いています。しかし、幼少期より物質的な不足が無く育ってきた世代の中で「何のために学び、働き、人生において何を成し遂げたいのか」という明確な「志」を持っている若者は決して多くはありません。目的無く大学に入り、目的無く就職活動を行い、目的無く社会人になってしまえば、今後の日本や世界を背負っていく大役には耐えられないでしょう。そうした背景を受け、2020年の大学入試改革を象徴とする有為な社会人を輩出するための教育改革が実施されており、その中枢を担う「教育再生実行会議」は2015年5月14日の第7次提言において、以下のように21世紀の社会で求められる人材要件を定義しています。

- ・主体的に課題を発見し、解決に導く力・志・リーダーシップ
- ・創造性・チャレンジ精神・忍耐力・自己肯定感
- ・感性・思いやり・コミュニケーション能力・多様性を受容する力

これらは未来永劫人工知能が人間のレベルまで到達できないであろう能力であり、既存の知識偏重・受動型の勉学では十分な育成が難しい分野でもあります。その涵養を具現化するのが本協会の取組・活動で、課題解決型学習・アクティブラーニングを中心とした教育手法を用い、公教育に先立ってより社会に近い実学的な側面から大学生の新しい学びの場を提供し、教育とアルバイトを掛け合わせた新しい形での有給インターンシップ「エデュバイト」として、次のようなテーマを元にした取組や活動を行って参ります。

1. 大学生・大学院生を対象にした、課題解決に向けて、リーダーシップを発揮できるグローバル・グローバル人財の育成
2. 産官学のコラボレーションによる社会人基礎力を有した人財を目指して切磋琢磨できる環境の創出
3. 地域・国家・国際社会に貢献するボランティア活動を通じた、豊かな感性や思いやりを持った人財の育成
4. 上記を以て志を持った青少年を育成し、世界に誇れる日本を創り出す

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。」進化論を提唱したチャールズ・ロバート・ダーウィンの言とされている有名なフレーズのとおり、時代に応じて求められる人材像は変わり、求められる教育も変わります。これからの21世紀の社会を力強く、志を持って生き抜く次世代の若者を輩出するための取組みを、柔軟かつ俊敏に行って参ります。